

やまがら(山雀)



毎年、冬には自宅に来てくれます。

市民の知る権利と表現の自由を奪う「特定秘密保護法」を廃止しよう。

- 命と人権・平和を大切にする、人にやさしい松山市政を実現しよう。
- 教育と子育て予算を充実し、医療・介護・福祉に税金を使います。
- 電車・バス・フェリーのシルバーパスを実施して元気な高齢者が活躍するまちにしよう。
- 伊方原発をやめて、子ども達に安心未来を引き継ごう。



発行・梶原ときよし事務所

2014年3月議会代表質問

3・3 梶原時義

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。

ネットワーク市民の窓会派は、この4年間、セミナーではなく、市民のための開かれた議会にするべく、議会基本条例制定のための行動はもとより、議会討論の活性化を図るために二問二答方式を実現させるなど僅か3人ながら、その存在感を発揮してきました。

政策では「市民のための税金は、直接市民のために使う」事を判断基準として、将来の子ども達に大きなつけを残す無駄なコンクリート大好き事業に反対し、子ども達の教育や医療・福祉・介護・雇用対策など直接市民に関わることに予算を重点配分していく市政に転換させるべく、市政のチカラ機能を果たしてきました。

また、2011年3月11日の福島第二原発事故が起きる前から、伊方原発の危険性を訴え、原発事故が起きた時の本市の対策を取るように議会でも質問し、危機感のなかった原発事故に対する認識を改めるよう、要求してきました。起きてはいけない原発事故は、原発が存在する限り防ぐことはできません。私達「市民の窓」会派は、市民の幸に生きる権利を守るために、これからも原発のない社会を目指して活動していきます。

国では「コンクリートから人へ」という国民の夢を謳った民主党政権が自滅し、安倍政権になってからは極端な右翼化が加速しています。本市でも改憲派の集会チラシが学校を経由して生徒や保護者に配られる等、自治体や教育委員会自体も右翼化に対する自浄能力を失いつつあることが顕著になっています。

我々、議員や公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負っており憲法を守る集会ならいざ知らず、改憲集会に公務員が手を貸す行為は、憲法違反に他なりません。

厳に慎むことを要求します。

この4年間を振り返ると、本市発注の公共工事裏金疑惑の追及の事など、まだまだたくさん伝えたいことがあります。この辺で本題の質問に入ります。(詳細は2面・3面)

市民のみならず私への決意

「一人ひとりが大切にされる人間尊重社会の実現」という理想を掲げ、私はこの4年間、全ての議会本会議に質問や討論で31回の登壇を果たし、市民みんなのための市政へ転換させるべく努力してまいりました。

(全議員の質問登壇回数平均は4年間で一人6回以下です。)

また市議会報告通信「やまがら」を配布して、市議会内外の活動を報告してまいりました。

市議会と党議員の数の倫理により間に暮らしたとはいえ、松山市発注工事裏金疑惑の追及では、本市幹部と工事受注業者の癒着と裏金構造を暴き、二度と不正を起こさせない体質に変えるための監視宣言を行いました。

また、公募の松山市城山公園及び公園内施設等の指定管理者決定過程の矛盾と、出来レースとしかいえない一社だけの決定を追及、或いは本市の監査委員選任問題においては、監査委員の選任が本市のメインバンクである銀行から、9期36年にもわたり永年指定席のように選ばれ続けていることの不適切な関係を指摘し、不祥事発生の要素を取り除くよう要求しました。

残念ながら未だ、このような官民癒着ともいえる構造が現存する限り、職員の不祥事根絶どころか、大規模コンクリート大好き市政が続いて行くことは間違いありません。松山を元気にする為には、市民の希望に添った直接市民のためになる税金の使い方をすることが一番大切です。

これからも市民の皆さんと一緒に、市政監視役に徹しながら松山を変えていきます。ご支援ください！

松山市議会議員

梶原ときよし



すぐにやりたいこと

国民年金程度
(月額4~5万円)
で即入居できる
老人ホーム
の増設

※3年待ちの現状を改善

高すぎる
電車・バス代の
市民負担軽減

市内電車・バス・
フェリーの
シルバーパス
を実現

未だ半数の
小中学校に残る
男女共用トイレ
の男女別化と
学校のトイレ
洋式化促進

行政の
市民個人情報
流出防止

〈梶原ときよしのこと〉

1957年 広島県に生まれる。

1980年 積水ハウス(株)入社

松山支店勤務(以後30年間勤務)

1994年 多発するいじめ問題を
解決する糸口として、親子の自然
なふれあいとコミュニケーション
を重視する「リビング階段のある
家」を考案し開発。住まい方の革命
を起こし、以後積水ハウスだけで
なく全メーカー全国に広める。

この年から南海放送ラジオ番組

「山ちゃん、梶ちゃんの納得の住ま
いづくり」他、ラジオパーソナリ
ティを13年間務める。

1998年 平和と人権を守る市民団
体「憲法を読む市民の会」をつく
り、平和・人権・脱原発の市民運動
にかかわる。

2010年 松山市議会議員初当選
津波避難対策として市内8000ヶ
所に海拔表示標識を設置させる。

「リビング階段」を創り
日本の住まいを
変えた梶原が
松山を変えていきます。

市民目線からの改革で、
松山を活性化！

一人ひとりが大切にされる 市民のための市政へ

梶原 ときよし

市民派

自然派

脱原発

伊方原発をやめて
安心な未来を築こう！



梶原事務所前にて



小松 正幸

私は、梶原さんの活躍に大いに期待しているものとして、皆さんに心から訴えたい。梶原への支持を広げて下さい。梶原さんの後援会を倍増させよう」

議会公質問

3月議会代表質問より抜粋

2014年3月3日



- ◆松山市菅沢町最終処分場「レグ」の不適正処理事案について
- ◆「レグ」問題に絡む中村知事の松山市議への責任転嫁発言について
- ◆「松山維新の会」の現職議員が本市職員恐喝未遂で逮捕された事件に別の本市職員が関わっていたことについて
- ◆小・中学校のトイレ洋式化促進について



松山市菅沢町 最終処分場「レグ」 の不適正処理事案 について

質問…2014年1月17日に出された松山市廃棄物処理施設審議会答申の結論は、県と市それぞれの管轄時期において産業廃棄物処理業者に対する対応が充分でなかったとした上で、埋立不可物の廃油を含む廃棄物が埋め立てられたのは、愛媛県の監理・管轄時期であったとしている。

①農業用水路の上に廃棄物処理場設置を認めた県の責任を含め、今回の環境汚染物質除去に要する費用の発生原因は、本市に権限移譲される前に起きたことは明白で、その管理責任の大半は県にあるのではないのか。（もちろん悪いのは業者である）

②本市の責任の割合は何%と考えているのか。

答弁…権限移譲においては、財源や権限などとともに、管轄下の事案について問題が生じた際に対応する責務も移譲を受けるものであることから、本事業案に関することについては本市で対応を行う責務があると考えています。

本事業案については、県市が相等的な立場で連携して対応することが妥当である。

発生原因が県に100%あるにもかかわらず県の責任を明確にせず。

質問…12月議会で、11月7日に出された審議会の行政対応検討部会の結論を基に現在の対策案である鉛直遮水案で必要な76億8千万円、本市負担分42億2,400万円のうち、県に対しいくらか支援を求めるのかという私の質問に対し、審議会の答申を基に検討するとの答弁であった。

1月17日の答申を受け、結局、県にはいくらか支援を求めるのか。

答弁…審議会答申において、県の財政的な支援については、他市事案における県市の役割分担の範囲を勘案して決められることが妥当であると示されたところだ。

質問…内容を理解しているほとんどの本市議員は、県に大半の責任があると判断しているのが現状である。

①大半が県の責任であるにもかかわらず、その負担を本市市民に押し付けるつもりなのか。

答弁…審議会答申において、県市が相等的な立場で連携して対応することが妥当であると結論付けられたところです。

「レグ」問題に絡む 中村知事の松山市議 への責任転嫁発言に ついて

質問…今回発生した「レグ」の環境汚染物質除去費77億円は、本市が県から権限移譲を受けた1998年以前に入られた有害な廃棄物等に起因しており、監理・管轄としての発生責任は100%県にあることは明白である（本市の管轄時に有害物質は入っていない）にもかかわらず、中村知事は何の証拠も出さず、（事件が起こって11年も経過した）2009年当時の松山市議会議員犯人説をつくり上げ、当時、自らが市長で、業者に有利な計らいをして許可した自分の責任を、議員の口利きがあったとして責任転嫁をしているものである。

①知事は、「口利き」と思われる働きかけをした議員は4人いたが、許可への影響はなかった」と矛盾と自己弁護に

満ちた発言を行うなど、迷惑を深めている気がするが、当時、市議の口利きがあったとして、環境汚染物質除去費発生とどう絡むのか。

答弁…本事案については、廃油を含む廃棄物が埋め立てられていたことや遮水工が破損したことなどによって生活環境保全上の支障のおそれがあることから、対策工事の必要性が生じているものであり、議員からの働きかけの有無と費用負担が発生することについては、直接関連するものではないと考えています。

「松山維新の会」の現職議員が本市職員恐喝未遂で逮捕された事件に、別の本市職員が関わっていた

質問…昨年末、「松山維新の会」の現職議員が本市職員を恐喝した罪で逮捕された。指摘しておかなければならないのは、市民の代表として市政の二元代表制の一翼を担わなければならないのが議員であるにもかかわらず、その立場の人間個人が犯し

た罪だけではなく、その罪を犯した相関図である。

罪を犯して辞めた議員は元警察官であった。

恐喝の標的にされたのは本市職員で、窃盗事件を犯したことを報告せず隠していたことの弱みに付け込まれたものである。

恐ろしいのは、その情報を恐喝した議員に教えたのは現職の幹部警察官であった。また、さらに凄まじいのは、恐喝された本市職員の戸籍情報を盗み取り、恐喝した議員に教えたのも別の本市職員であった。

①この4人のうち、ただの一人でも、人として、或いは公務員としての自覚があればこの事件は起きなかったのではないかと。とりわけこの二人の市職員の監督責任者である市長はどう責任をとるのか。

答弁…このたびの恐喝未遂事件に関連し、元職員が個人情報提供していたことにつきまして、心からお詫び申し上げます。今回の恐喝未遂事件については、動機、態様など、司法の場において明らかにされており、市職員としての自覚、特に、個人情報に限らず、業務で

取扱う情報の重要性を再度徹底するとともに、各種システムの操作状況を検証し、二度とこのようなことが起きることのないよう努めてまいります。

質問…恐喝した議員に、被害者である市職員の戸籍情報を漏らした元職員は、在職中の2013年8月21日に「警察から事情聴取を受けた」と人事課に報告し、人事課は松山東署に内容照会している。また市が被害者の職員による窃盗事件の告発を受け、2012年10月24日に同職員から事情を聴いていたこと、さらに同職員はその翌日、松山東署に被害届を出していたことが、2014年1月29日の恐喝未遂事件の初公判で明らかになっている。

①以上のことから、恐喝被害職員の戸籍情報を流出させた容疑で警察の事情聴取を受けた市民部の職員の報告により、市長は2013年8月21日以降の段階で情報流出の事実を知っていたにもかかわらず、2013年11月18日の愛媛新聞の取材に対し、「照会に市職員が関わっていたかどうか、警察からの捜査協力依頼がなく、

情報が入っておらず分からない」と市民に嘘を言ったのはなぜか。

答弁…平成25年11月18日の取材についてですが、元職員から昨年8月「警察で任意での事情聴取を受けた」との報告がありましたが、どういった内容か分かりませんでした。

このため、元市議の事件に「市職員が関わっていたかどうか、分からない」と回答したものです。

小・中学校のトイレ洋式化促進について

質問…全国で公立学校施設の老朽化が進行する中、特に1970年代に一斉に建てられた校舎の老朽化は、子供たちの教育環境改善の最大の課題になっている。

本市においても老朽化対策として耐震化は着手しているが、トイレの改善までは手が回っていないのが現状である。しかしながら1996年に発足した学校のトイレ研究会が2012年に行った全国1,972の自治体アンケートによると、学校施設の老朽化対策で、最優先に対応してもらいたいのは学校のトイレである

との結果が出ている。

本市では、子供たちの家庭トイレの洋式化が大きく進んでいるにもかかわらず、学校トイレの洋式化率は36.8%と大幅に遅れている。子供たちの圧倒的多数が洋式トイレを望んでおり、教育環境改善の最大テーマに位置づけるべきではないか。

答弁…各家庭で洋式トイレが普及していることや学校トイレの老朽化により衛生上の問題が生じることなどから、洋式化は必要なものと認識しています。

トイレの洋式化も教育環境改善の大きなテーマの1つとして認識しています。が、その他の施設老朽化に伴う諸課題も含めて総合的に捉えるべきものと考えています。

その他の質問

今年度予算における、リフォーム補助事業について市民の業者選択の自由が奪われること等の問題点を指摘し、改善するよう求めました。

市民からみれば、今年11月にある市長選挙を見据えた、野志さんのバラマキ予算と言えそうです。

4年間31回(質問・討論)の登壇で 議会改革と市民生活向上へ着実な成果！

梶原時義(4年間)松山市議会一般質問内容一覧

- ◆2010年6月定例会
 - 1. お年寄りや障害者の福祉増進と元気活力あるまちづくりについて
 - 2. 西条水分について
 - 3. 高齢者や障がい者に優しいまちづくり
 - 4. 市内電車・バス・フェリーのシルバーパスについて
 - 5. 人権と平和意識普及について
 - 6. 伊方原発で事故が起きた時の対策について
- ◆2010年9月定例会
 - 1. 第3回定例会における池内水資源担当部長の水問題の答弁について
 - 2. 水問題について
 - 3. お年寄りや障害者の健康や生きがいづくりの推進について
 - 4. 平和行政の推進について
- ◆2010年12月定例会
 - 1. 野志市長の政策について
 - 2. 第5回定例会における社会福祉担当部長の答弁について
 - 3. 水問題について
 - 4. 市道小野3号線(食場)平井線の早期開通について
 - 5. 本市市民部が、市民の大切な個人情報委任状もなく無断で警察に提供していることが発覚したことについて
- ◆2011年3月定例会
 - 1. 野志市長の所信
 - 2. 教育長の所信
 - 3. 小・中学校のいじめ問題の解決
 - 4. 米軍機の低空飛行事件
 - 5. 第7回定例会における市民部長の答弁
 - 6. 2011年度予算案
- ◆2011年6月定例会
 - 1. 定例会議案提案説明等
 - 2. 原子力防災対策
 - 3. 原子力防災教育
 - 4. 市発注工事裏金疑惑
 - 5. 市民部が市民の個人情報をも市民に無断で勝手に警察に提供していること
 - 6. 養護施設退所者自立援助ホーム計画
 - 7. 65歳以上の高齢者の電車・バス・フェリーの利用料金の無料化
- ◆2011年9月定例会
 - 1. 市長の政治姿勢
 - 2. 市長の原発に対する姿勢
 - 3. 市発注工事裏金疑惑
 - 4. 市民部の個人情報無断垂れ流しについて
- ◆2011年12月定例会
 - 1. 野志市政一年の市民の評価
 - 2. 市発注工事裏金疑惑
 - 3. 津田中学校プールにおける、水道水流失事故
- ◆2012年3月定例会
 - 1. 原子力防災対策
 - 2. 南海地震における津波対策(海沿いの地域に海抜表示標識設置を提案)
 - 3. 統廃する職員の不祥事
 - 4. 政策提言懇談会の開催
- ◆2012年6月定例会
 - 1. 3月議会での市長答弁について
 - 2. 津波避難対策事業
 - 3. 奥道後地区の活性化
 - 4. 男女共同参画推進
- ◆2012年9月定例会
 - 1. この夏、原発なしでも十分に電力余力があったこと
 - 2. 津波避難対策事業
 - 3. 津波避難対策事業
 - 4. 男女共同参画推進
 - 5. 下水道料金の値上げ問題
 - 6. 産廃処分場問題
 - 7. 第6次松山市総合計画
- ◆2012年12月定例会
 - 1. 総選挙の争点である脱原発について
 - 2. 津波避難対策事業
 - 3. 下水道事業
 - 4. 生活保護受給者への就労支援
- ◆2013年3月定例会
 - 1. 議員定数条例の一部改正について(討論)
 - 2. 2013年度予算案に対する討論
- ◆2013年6月定例会
 - 1. 野志市長の政治観を問う
 - 2. 男女共同参画推進
 - 3. 小・中学校の男女共用トイレ解消について
 - 4. 城山公園の指定管理者について
- ◆2013年9月定例会
 - 1. 城山公園の指定管理者について
 - 2. 小・中学校トイレの洋式化促進について
 - 3. 警察へ提供される個人情報の扱い
- ◆2013年12月定例会
 - 1. 最終処分場「レグ」の不適正処理事案について
 - 2. 市民の個人情報流出について

○印は特に重視した質問内容です。

4年間の実績

実現に向けて

議会本会議と市民福祉委員会が「シルバーパス」の実現に向けて何度も質問しましたが、野志市長・市政執行部の反対で実現できていません。しかしまず低料金化から、あくまで実現をめざします。申し訳ありません

約束させたもの

- 高齢者の電車・バス・フェリーのシルバーパスについて
- 小・中学校の男女共用トイレの解消、トイレ洋式化の促進
- 女性の登用のない審議会をゼロにしてい
- 生活保護受給者の就労支援の拡大

私が主体的に関わり、議会質問や委員会質疑を行った上で、実現に貢献したもの

- 市民の生活相談や日常活動
- 市道舗装・白線明示のやり替え、側溝補修・危険水路の安全ポール設置等の、市民の安全に関することは即日対応してきました
- 障害者福祉年金支援・生活保護支援・生活福祉支援等の行政支援の実行につなげました
- DVや親の教育放棄による被害を受けた女性や子どもの相談も解決しました
- 公園に大人の健康遊具の導入促進(ドイツでは主流)
- 男女共用トイレから男女別トイレに改築を実現(湯山中)
- 校庭にバックネットを設置し安全を確保(湯山小)
- 湯の山団地内交差点全面改修を実現(安全な交差点に変更)
- 奥道後方面への道路標識を充実させ観光を活性化
- 警察への戸籍謄本等を市民に無断で警察に提供していた
- 10年も続いた男だけの固定資産評価審査委員会に女性を登用させた
- 無断で市内の戸籍謄本等を市民に無断で警察に提供していた
- 津波避難対策として市内8000カ所に海抜表示標識を設置させた
- 市道小野3号線(平井町・食場町)の開通を早めさせた(東部地区の利便性が大きく増しました)
- タウンミーティングでの司会をプロから職員に変更させた(1回8万円の支出を取り止め、延べ700万円以上の無駄な税金支出を削減)
- 議会本会議と市民福祉委員会が「シルバーパス」の実現に向けて何度も質問しましたが、野志市長・市政執行部の反対で実現できていません。しかしまず低料金化から、あくまで実現をめざします。申し訳ありません

議会の活性化へ向けて前進

- セレモニー議会をやめさせるため、全議員の中で唯一人、理事者に議会質問文を提出せず、なれあい答弁をやめさせ、緊張感ある質疑を展開した
- 議会質問における一問一答方式を導入させた
- (これまでのセレモニー議会から緊張感のある議会に激変)
- 定例会議の議員質問回数制限(年2回まで)を撤廃させ、全議員が全議会で毎回質問ができるようにした
- 教育委員会等の同意人事において抱負を明記させた